

## タシュブラトフ・マンスールジョン 研究員（ウズベキスタン）

はじめまして。私はウズベキスタンから来ましたタシュブラトフ・マンスールジョンと申します。ウズベキスタンでは、地質鉱物資源国家委員会の地質・地球環境局で水文地質学主席専門官として働いています。私が所属する地質・地球環境局の主な業務は次の通りです。



- 地球環境に関わる企業への支援、先進的技術を用いた同分野におけるクオリティーの確保と効率化促進の手助け
- 山岳地域での地滑りや雪崩が発生する危険地域において（特に春から秋の期間）実施される関連活動に対するモニタリング
- 当該地域における放射性物質の影響に関する予防管理
- 地質及び地球環境業務における指導、地下水を活用した貯水タンクの建設、山岳地域における地滑り及び雪崩に対する防護策の開発

中央アジアにおける地質学の発展は、1900年代、トルコ地域の地質図や鉱物に関する報告書がまとめられた時に始まりました。1920年になると中央アジア大学（現在のウズベキスタン国立大学）が、地質学の専門家を養成するトレーニングを実施しました。1926年には、中央アジア地質委員会（1930年に中央アジア地域地質所に改名）が組織化されました。1937年には、中央アジア地質トラストが、そして1938年にはソビエト地質学委員会によるウズベク地質局が設置されました。

それでは、次にウズベキスタンにおける地質学に関する研究機関の変遷について紹介します。まず、基本的な情報としてウズベキスタンは1991年のソ連崩壊にともなって、ウズベキスタン共和国として独立しました。ソ連崩壊前の1941年から1945年の期間、ウズベク地質局は燃料やエネルギー資源の調査活動を目的として実施していました。1946年から1957年の期間においては、地質学の研究者がその実用性を求めて、石油、ガス、レアメタル、化学及び工業用の鉱物、建築用資源の調査を行うようになりました。1957年になると、様々な省庁から専門家が集まり、閣僚理事会において新たな事務局を設置しました。そしてソ連崩壊後の2007年1月17日、大統領による「ウズベキスタン地質鉱物資源国家委員会による抜本的な改良」が同分野発展の分岐点となり、現在に至ることになりました。

ADRCの在籍期間においては、地滑りや土石流などの早期警報に関するモニタリングシステムについて学びたいと思います。中央アジアの褶曲地帯は5,600万ヘクタールにもおよびます。河川流域には多くの居住地が存在し、1,500万から1,700万人の人が住み、現在もなお人口は増加傾向にあります。

この地域においては、大小含めおよそ7,000万の地滑り（危険区域を含む）や800万を

こえる泥流が発生しています。さらに、同地域には 3,000 以上の氷河湖があります。これら災害への対策として、ウズベキスタンの地滑りモニタリングが 1958 年に設置されました。現在は、ウズベキスタン地質鉱物資源国家委員会が管理し、7 つの地域にモニタリングポイントが設置されています。年間では、およそ 750 から 800 の地滑りを観測し、78 の今後発生危険性が高い（地塊の変位量が大きい）地滑りも観測しています。

日本は防災の分野でリーダー的な存在だと思います。客員研究員プログラムに参加する期間、私は日本のモニタリングサービスの活動に関する事例等を学びたいと思います。今回のプログラムで得られる知識は、泥流や地滑り、地震などで発生する被害の軽減にきっと役立つだろうと思います。さらに、災害の危険地域におけるモニタリングや警報、山岳地域に住む人々のための安全性の改良などにも貢献すると思います。最後に、このような機会を頂いた全ての皆様に対しまして、お礼を申し上げます。